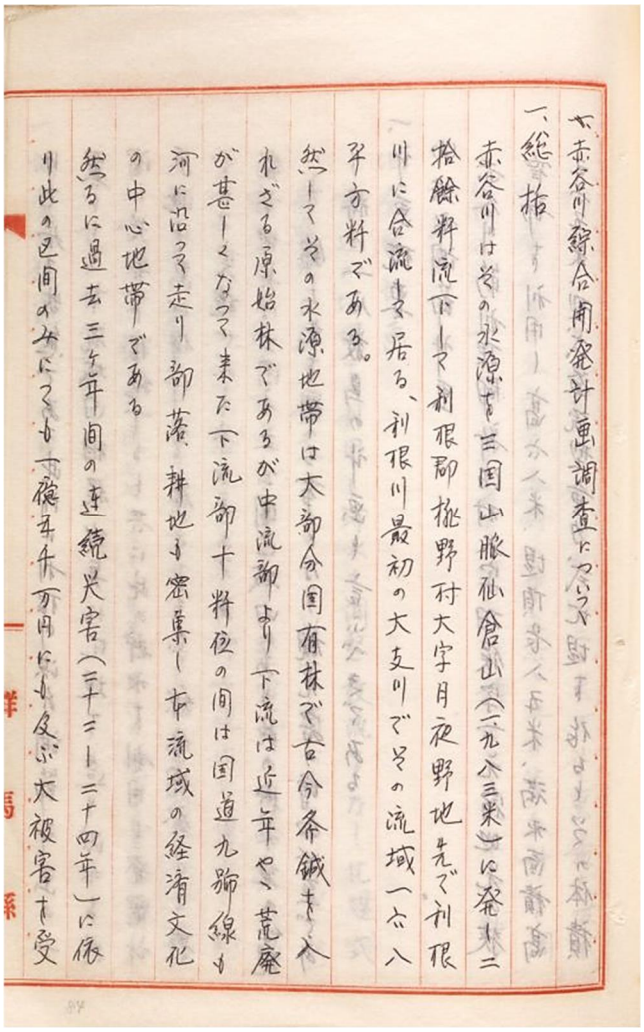
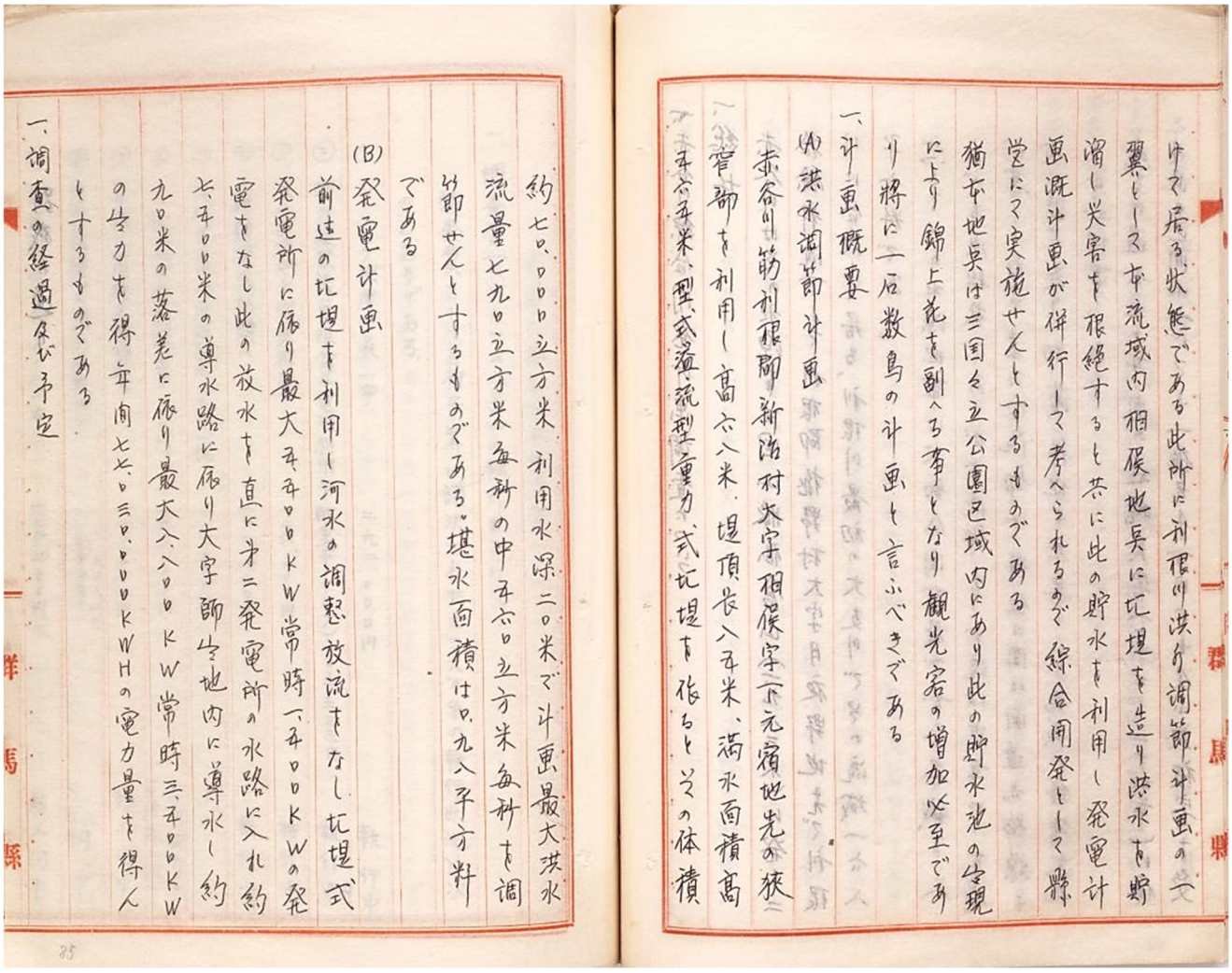


27　群馬の治水・電源強化へ向けた赤谷川総合開発計画文書

昭和27（1952）年７月

本資料は、昭和27年に河川課が作成した、赤谷川総合開発計画の調査状況をまとめた行政文書です。戦後、群馬県を繰り返し襲った水害に対応するため、治水・水力発電・地域開発を一体的に進めようとした総合事業の検討過程を示しています。中心事業となる相俣（あいまた）ダムは、赤谷川流域の治水力を高めるとともに、県営水力発電の基盤を築きました。「電源群馬」をめざし、戦後復興と地域発展を支えた群馬県の電源開発の一端を示す資料です。

群馬県行政文書『知事事務引継書』（A0182A0B83-1）